

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000044		
法人名	社会福祉法人寿宝会		
事業所名	グループホーム喜寿苑 Bユニット		
所在地	愛知県豊橋市前芝町字加藤381-2		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成23年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は純和風の外観であり、両フロアからは中庭で栽培している菜園や花を眺めることができ、心を癒してくれます。施設のすぐ近くには川が流れており、景色も良く散歩にも最適です。利用者様にはそれぞれ思い思いに過ごして頂くことを基本とし、職員は利用者様一人ひとりの個性を引き出しながら、さり気ない介助、声かけを心掛けています。利用者様にとって「第二の家」と思ってもらえるような温かい施設を目指しております。認知症に捉われず、いつまでも「自分」というものを持ち続けて頂けるよう、今出来ている事にしっかりと目を向けるようし自信、活気に繋げられるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の理念「思いやり」を掲げ、常に職員が目届く場所に掲示し、意識を持って支援していけるよう心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	併設している特別養護老人ホームと合同で毎年7月に夏祭りを開催し、地域の方の参加も多数ある。お相撲さんの慰問などもあり、地域の保育園児との交流会も開催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽に立ち寄れる環境を整えており、地域の方からの質問や相談を受け入れる体制を整えている。職員も積極的に研修や勉強会に参加するようにし知識を高めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、活動報告を行い、その中で参加者から意見などをもらい、施設サービスの向上に努めている。また、地域の方との関わりが積極的に行えるよう地域交流に関しての意見交換も行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当窓口へ出向いたり、担当者の訪問時に事業者のサービス内容、取り組みを伝え助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の行動を制止したり職員の都合で抑制したりしないように職員同士確認し合いながら支援を行っている。安全面での問題が発生してしまった場合は職員間で話し合い、極力拘束にならないよう利用者様の立場に立って支援方法を検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で常に虐待行為の兆候を見逃さないように意識し合うようにし、職員同士助け合いながらストレスを溜めないように心がけている。困った時はアドバイスし合いながら皆がレベルアップ出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度についての研修に参加し、施設内でも勉強会を開催し、職員全員で知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事業所の方針、ケアに関する取り組みなどを説明した上でご家族様、利用者様の希望、要望を聞き入れ納得を頂いている。また、退居後の対応なども説明し安心して頂けるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付担当者が明記されている。玄関口に意見ボックスを設置し、ご家族様からの意見などを頂く機会を作っている。また、半年に一度サービスに関する意見、調査も行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議、責任者会議を開催し、職員からの意見、要望を聞き入れながらコミュニケーションを図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のメンタル面、体調面に気を配り、悩みや疑問の解決に取り組んでいる。年2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で開催される研修には積極的に参加して頂き、知識の向上に努めている。研修後は、復命書を提出して頂き、全職員にも研修内容の報告、勉強会を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部への研修に参加し、他事業所の方との交流、意見交換を行い、日頃のケアに活かしている。事業所内の勉強会の中でも他事業所からの意見について意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、生活状況、身体状況の把握をし、利用者様の求めている事やご家族様の要望なども理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が求めている事、負担を感じている事などを聞き入れ、理解した上で事業所としての対応方法を伝えるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族様の困っている事、不安に感じている事を見極め、出来ることはすぐに実行するよう努めている。すぐに出来ない事に関しては、方策を考えながら今後の対応策として案を出すようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様がこれまでの人生で培ってきた知識を教わったり、一緒に家事や暮らしの中でも物事に参加して頂きながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の中の出来事は面会時や毎月送っている手紙の中で報告したり、支援の方法について相談するようにしている。ご家族様と常に連携が図れるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じて慣れ親しんだ場所へ出掛けられるようご家族様の協力も得ながら支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性を考慮し、食事の席を決めたり、外出時には、気の合う方同士で出掛けられるよう支援している。利用者様同士が関わり合ったり、共に支え合えるような環境作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も気軽に相談などを受け入れる体制を整えている。相談があった際は、丁寧に話を聞き、ご家族様の不安や心配事の解消に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様と接する中で言葉にしっかりと耳を傾け、思いを受け止めるようにしている。なかなか自分からは思いを訴えることのない利用者様にはさり気なく引き出せるような声かけを行い、表情や仕草などから察するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントやフェイスシートなどからご家族様、利用者様に話を伺い、全職員が情報共有出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に出来ないことばかりに目を向けるのではなく、出来る事、得意とされている事を大切に考え、生活の中での活気、自信に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族様には日頃の生活の中での希望や要望を聞き入れ、ケアに反映させるようにしている。アセスメントを含め、カンファレンスを定期的に行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録を細かく記録に残し、ファイルに挟むようにし職員全員が情報を共有出来るようにしている。記録を下に、より良い支援へと活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様一人一人に求められる支援を出来ないからと、ないがしろにしないよう職員間で協力し希望を叶えられるように調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し、地域の民生委員、介護相談員、包括支援センターの職員と意見交換を行い、地域との関わりを持ちながら生活出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様が希望されるかかりつけ医との連携を図り、柔軟な対応を行っている。受診は職員が同行し状態報告を的確に行うようにしている。緊急時はご家族様の協力を得ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が介護職員と協力しながら状態の変化、健康管理に努め、必要に応じた支援を行うようにしている。月2回の主治医往診時にも状態報告を行い助言を頂きながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医と情報交換を行いながら指示を仰いでいる。入院中は、頻繁に介護職員、看護職員がお見舞いに窺い、回復状況の把握をし早期退院に努めている。同時に気持ちのケアも行うよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様のご家族様が安心して最期を迎えられるよう話し合いを重ね、ご家族様、利用者様の希望に沿えるように施設で出来る限りの支援を行っている。終末期に向かっていく中で気持ちのケアにも力を入れている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員による応急処置の勉強会を行ったり、消防職員による救命講習の研修を実施したりと職員の意識向上を図っている。緊急時マニュアルも作成し的確な対応が行えるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い、警報装置の使用方法や消火器訓練など消防署の協力にて行っている。実際の災害時の場面を想定した避難訓練も実施し職員全員避難方法を身につけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様を上から指示をしたり、抑えつけるようなことがないように心掛け、毎月1回言葉つかいチェック表にて自分の言葉つかいを振り返り改善に向けて取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	物事を行う際、すぐに答えを提示することは避け、ヒントを与えながら自分で選ぶという機会を作るようにしている。意思表示が困難な方に対しては表情や仕草から気持ちの読み取りを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様からの要望や思いにしっかりと耳を傾け、指示的な対応や職員の都合で押さえつけてしまわないように日々心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装は本人に希望を聞きながら決めて頂いている。希望を言う事が困難な方でもその人らしさを考えながら身だしなみの介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の利用者様の得意としている事などを把握し、利用者様同士が協力しながら調理や盛り付け、片付けなど行う機会を作っている。食事の際も職員が間に入り、楽しく食事が出来るよう雰囲気作りに努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は毎日記録に残し、職員が情報交換を行っている。嚥下状態にも注意しながら観察し、状態に応じて管理栄養士と相談しながら食事形態の工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うよう促しを行い、一人一人の力量に合わせた支援を行っている。職員へも口腔ケアの重要性を理解して頂けるよう常日頃から伝えていくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄リズムの把握を行うとともに排泄チェック表に水分摂取量も記載し水分摂取量との関連性も考えながら対応している。尿意、便意の困難な方には、行動を観察しながら排泄案内を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を排泄チェック表に記録し便秘傾向が見られる方には、乳製品などの提供にて便秘予防に努めている。日々の運動にも注意しながらラジオ体操、近隣への散歩などにて運動量を増やしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入浴して頂けるよう浴室の準備を行っており、一人一人の培ってきた生活習慣に沿うよう努力している。季節に応じて脱衣所の室温にも注意し体調管理にも努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースにて思い思いに休息して頂いたり、部屋の明るさや室温など希望に合わせて対応し安眠出来るように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方箋にてその時々服薬状況を確認している。変化が見られた際は記録に残し往診時に医師に伝え、服薬の調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の特徴、得意としている事を見極め、出来る事は積極的に行って頂く場を提供している。活躍する場ということにも力を入れるようにし達成出来た時の喜びを感じて頂けるよう考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその時々希望に沿って外出の機会を設けたり、週一回買い物の日を設け、希望者と出掛けている。また毎月一回は外出行事を設け気分転換になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を希望する利用者様には本人の持つ力に応じて所持して頂いている。買い物の希望がある時は外出の対応をして本人の力に応じて立替えなどでも対応出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて、親しい方との電話で話したり、ご家族様へ手紙を書いて頂く機会を作ったりと大切な方との関係が途切れさせまいよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を中心に四季を感じて頂けるような飾りつけを工夫している。飾りつけを行う際は、利用者様と協力して作り上げるとも考え、利用者様の意向も取り入れるよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファーが置いてあったり和室の別空間があり、個々に居心地の良いと感じる場所で思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、自宅で使用されていた家具や食器などを持ち込んで頂くようにしており、出来る限り自宅に近い居室環境を整えるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、利用者様の身体状況に合わせて安全に生活して頂ける環境を整えている。生活して頂く中で危険と感ずることがあれば、その都度職員同士で話し合い、環境改善に取り組んでいる。		